

令和6年（2024年）の恵庭岳の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2024年の発表履歴

2024年中変更なし

噴火予報（活火山であることに留意）

○2024年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～3）

9月24日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。山頂東側の爆裂火口内には、引き続き弱い噴気を確認し、その状況に特段の変化はありませんでした。また、過去の観測（2022年9月）と比べ、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

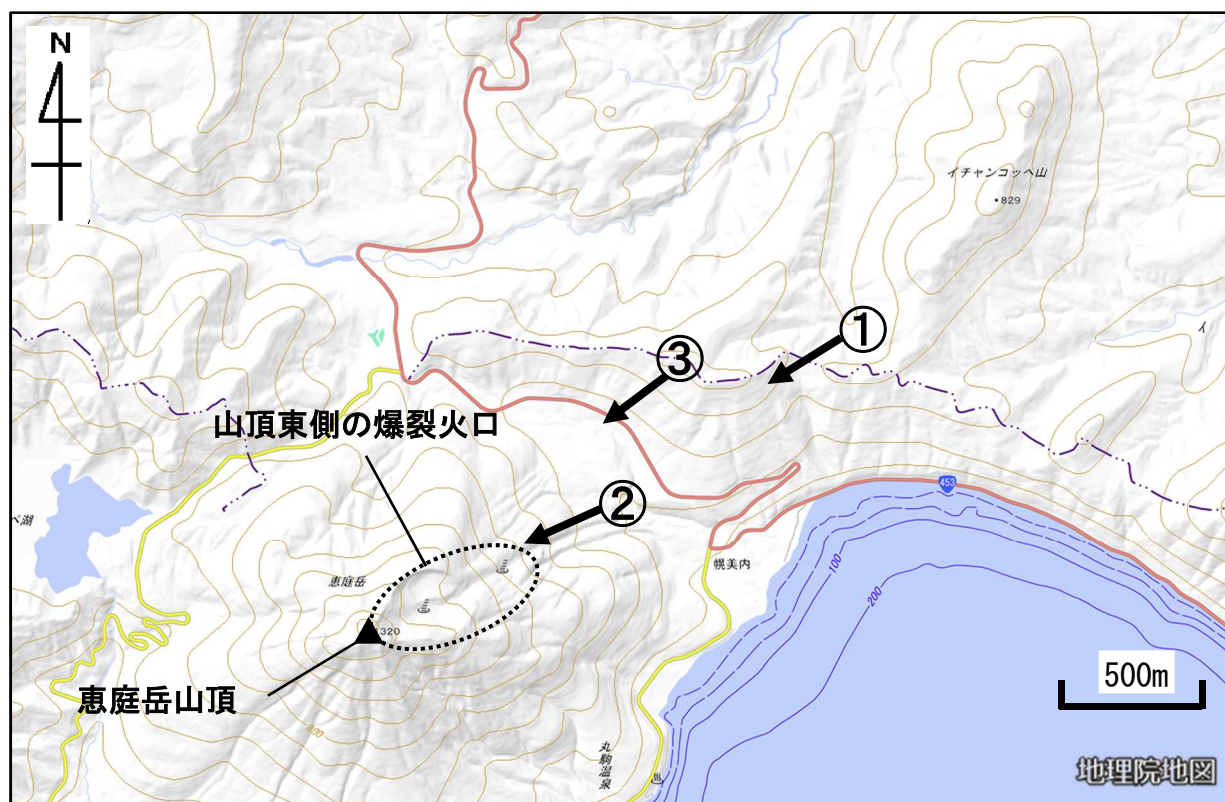


図1 恵庭岳 周辺図及び撮影方向（矢印）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図2 恵庭岳 山体全体の状況 北東側上空（図1の①）から撮影

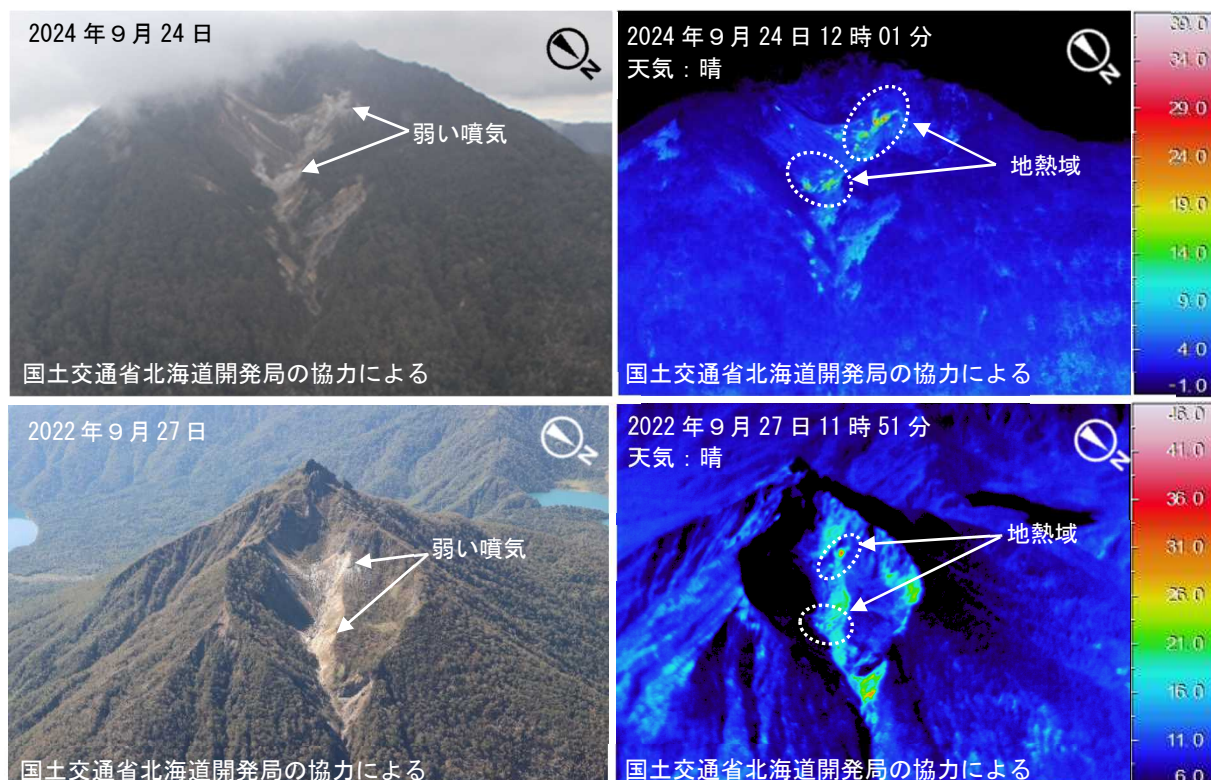


図3 恵庭岳 赤外熱映像装置による山頂東側の爆裂火口内の地表面温度分布

上段：北東側上空（図1の②）から撮影 下段：北東側上空（図1の③）から撮影

- ・爆裂火口内では、過去の観測（2022年9月など）と同様に、上下2か所から弱い噴気が認められました。
- ・2ヶ所の噴気付近及びその周辺には弱い地熱域（白破線内）が認められ、その状況に特段の変化は認められませんでした。（その他、火口内の植生が認められない領域の一部で周囲に比べて温度が高く見えるのは、主に日射による影響と考えられます）。